

# 具体的な取組状況

環境計画に掲げた27の取組事項に関する平成29（2017）年度の取組状況について、次のとおり取りまとめました。

例

|   |        |   |
|---|--------|---|
| ① | ○○○○○○ | ② |
| ③ | ④      | ⑤ |
|   |        | ⑥ |
| ⑦ | ⑧      |   |

| 凡 例 |  |
|-----|--|
| ①   | 取組事項の名称  |
| ②   | 取組事項に関連する事業（水道・工水・下水）  |
| ③   | 環境計画の計画期間における取組内容の概要   |
| ④   | 取組事項の進行管理の指標（数値目標等の計画値、内容）   |
| ⑤   | 計画値等に対する平成29(2017)年度の取組結果  |
| ⑥   | ⑤の取組結果の評価<br>・ 目標を大きく上回って達成（目標値に対して150%以上） ⇒ 1<br>・ 目標を上回って達成（目標値に対して105%を超え150%未満） ⇒ 2<br>・ 目標をほぼ達成（目標値に対して95%以上105%以下） ⇒ 3<br>・ 目標を下回った（目標値に対して105%を超え95%未満） ⇒ 4<br>・ 目標を大きく下回った（目標値に対して50%以下） ⇒ 5 |
| ⑦   | 平成30(2018)年度以降の取組内容  |
| ⑧   | 写真・図等  |

## I 地球温暖化対策の推進

### I-1 省エネルギー及び温室効果ガスの削減

#### I-1-(1) 省エネルギー型機器の採用

水道 | 工水 | 下水

| 取組概要   | 進行管理の指標   | 平成29(2017)度の取組結果                            |    |   |
|--|---|---|----|---|
| 施設・設備の更新や事業所の改築等に合わせ、高効率型の受変電設備や送風設備、インバータ制御方式を採用したポンプ設備、LED照明設備などを採用し、省エネルギー化を図る。 | ○照明器具をLED照明に更新<br>○下水道施設へのトッランナー変圧器の導入<br>○下水道施設への軸浮上式ターボブロワと効率的な散気装置の導入の推進 | ○第1配水工事事務所の照明設備と、生田浄水場及び稲田取水所の外灯設備をLED照明に更新 |    |   |
|  |   | ○麻生水処理センター受変電設備の更新工事に合わせ、トッランナー変圧器へ更新       |    |   |
|  |   | ○入江崎水処理センター西系水処理施設の再構築に合わせ、軸浮上式ターボブロワへ更新    |    |   |
|  |   | ○入江崎水処理センター西系水処理施設の再構築に合わせ、効率的な散気装置への更新に着手  |    |   |
|  |   | 評価  | 水道 | 3 |
|  |   |   | 工水 | 3 |
|  |   |   | 下水 | 3 |

| 今後の取組  |
|--|
| <b>【平成30(2018)年度】</b><br>○照明器具をLED照明に更新<br>○麻生水処理センターに設置したトッランナー変圧器の運用を開始<br>○入江崎水処理センターに設置した軸浮上ターボブロワの運用を開始<br>○入江崎水処理センター西系施設の再構築に合わせ、効率的な散気装置へ更新<br><b>【平成31(2019)年度以降】</b><br>○照明器具をLED照明に更新<br>○設備の更新に合わせた省エネルギー型設備の導入の推進 |

I-1-(2) 自然流下方式による取水・送水・配水

水道 工水 下水

| 取組概要   | 進行管理の指標                                      | 平成29(2017)年度の取組結果  |
|--|--|--|
| 水道事業及び工業用水道事業における取水・送水・配水地点の地形高低差を最大限に活かした自然流下による水道システムにより、電気使用量の抑制に努め、自然流下を基本とした水道施設の整備を継続する。 | 取水・送水・配水地点の地形高低差を最大限に活かした自然流下による水道システムを継続する。 | 水源の貯水量や水の使用量を考慮し、上流取水を優先とした取水から配水までの施設の高低差を最大限活用した水運用を行った。 |
|  |  | 評価 水道工水 3  |

今後の取組

上流取水を優先とした取水から配水までの施設の高低差を最大限活用した水運用を継続



自然流下による水道システム

I-1-(3) 下水汚泥の二段燃焼による温室効果ガスの削減

水道 工水 下水

| 取組概要  | 進行管理の指標                              | 平成29(2017)年度の取組結果                    |
|---|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ○入江崎総合スラッジセンターにおける下水汚泥の焼却処理は、高温(850℃)での焼却により、一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O:二酸化炭素の300倍の温室効果)を大幅に削減可能であり、一部施設に導入してきたが、さらなるN <sub>2</sub> Oの低減を目的とした二段燃焼技術の開発に成功したため、順次施設に採用していく。<br>○2、3系焼却炉の二段燃焼化を行い、N <sub>2</sub> O及びNO <sub>x</sub> の低減を図る。<br>○二段燃焼化により、6,400t-CO <sub>2</sub> の温室効果ガス削減(平成28(2016)年度比)を目指す。 | 既設炉の改造(二段燃焼化)による温室効果ガス削減の推進にむけた検討を実施 | 既設炉の改造(二段燃焼化)による温室効果ガス削減の推進にむけた検討を実施 |
|   |                                      | 評価 下水 3                              |

今後の取組

【平成30(2018)年度】  
○既設炉の改造を踏まえた二段燃焼技術の本格運用に向けた検討を実施

【平成31(2019)年度以降】  
○二段燃焼化した3系汚泥焼却炉の運用を開始  
○2系汚泥焼却炉の改造(二段燃焼化)を実施



燃焼温度によるN<sub>2</sub>O排出量の比較